

『ナショナリズムの歴史と現在』

E.J.ホブズボーム著、小林正夫・嶋田耕也・庄司信訳

(1992 原著、2001 訳著)、大月書店

【目次】

1. はじめに
2. ナショナリズムとは？
3. 近代的ナショナリズム発展の素地～大衆的プロト・ナショナリズム～
4. 統治者側にとってのナショナリズム
5. ナショナリズムの変容 1870－1918
6. 絶頂期のナショナリズム 1918－1950
7. 20 世紀後半のナショナリズム
8. おわりに

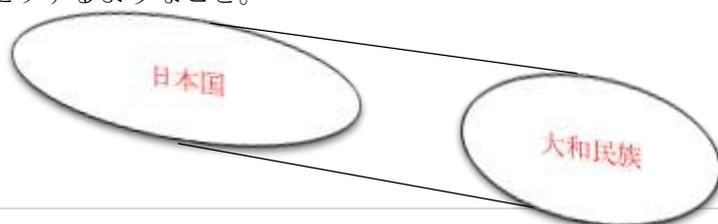
1. はじめに

今年 6 月 23 日の英国国民投票の結果では、英国内の民族主義を標榜する政党（UKIP など）は EU からの離脱を煽り、世界的な衝撃をもたらした。インターナショナルとナショナルの対立は昔から根強いものだ。本書を通じて、ナショナリズムとその理論の歴史を振り返る。それを通じて今日のナショナリズムを考察する上での一助になれば幸いである。

2. ナショナリズムとは？

日本語で表すなら、国粋主義や民族主義、国家主義とも訳される言葉である。このように曖昧な定義がなされる言葉のため、はじめに、本書におけるナショナリズムの定義をしたい。**「ナショナリズムとは、第一義的には、政治的な単位と民族的な単位とが一致しなければならぬと主張する一つの政治原理である」**(アーネスト・ゲルナー)

たとえば、日本国はすべて大和民族で構成すべきで、朝鮮人その他外国人諸々の排斥を訴えたりするようなこと。



3. 近代的ナショナリズム発展の下地～大衆的プロト・ナショナリズム～

Q.そもそも、なぜナショナリズムという排外的思想が広まったのか？

A.ナショナリズムは、人間の現実の共同体とネットワークの衰退や崩壊、あるいは、それらが役に立たなくなったことから生じる情緒的空白を埋めるために広まった。

Q.他の要因は...大衆側にナショナリズムを受け入れる下地はなかったのか？

A.大衆の潜在的な集団帰属意識—**プロト・ナショナル**—という下地があった。

・2種類の**プロト・ナショナル**が存在する。

①人々がその過去の大半を実際に過ごした範囲を超える、全国的な大衆の一体性



例) 聖ヤヌアリウス の「血液の奇跡」



聖ヤヌアリオスの血は、ナポリという一地方に幸福をもたらすが、ナポリの人々は全国的な聖母マリアの方を熱心に信仰する。

②国家や制度と直接的に結びついているエリート集団の政治的結合と彼らの言語の存在



江戸時代のエリート

例) 日本の江戸と明治

江戸期では、エリート集団の結びつきは、幕府と 293 の藩がそれぞれ統治をおこなうことで、国民的一体性を感じさせなかったが、明治期の府県制のもとによる中央集権統治は国民的一体性を感じさせた。

是等は、支配層のエリート集団が政治的に結合し、彼らが共通の言語を使うことは、のちに、近代国家が形成されていく中で、国民全体にまで落とし込むのを容易にした。すなわち、これらは、一般化と拡張、大衆化の可能性を持つものであった。

・**大衆的プロト・ナショナリズム**はいかにして成り立っているのか？

ホ「一般大衆の意識を推定しなければ、正確に答えられない」

Q.では、大衆はどのような意識をもっていたのか？

A.自分たちの言語やエスニシティを基に一つの集団と見なしていたわけではなく、**宗教や王権、帝国**といったもの真に**プロト・ナショナル**を生んでいた要因だった。

①言語

読み書きできない者の土着の言語は、その土地特有のなまりや方言の複合体で、地理的な近さや往来可能性によって、簡単に通じたり、なかなか通じなかったりする。

言語上の障壁が本当に自と他を分離する原因になるのか？

例) 薩隅方言

薩隅方言は、アクセントなどが関東や関西と大きく異なるが、それによって日本人でない、または日本の一員ではないと見なされるわけではない。

②エスニシティ

出自と文化を共有する民族集団が、相互行為関係のもとに複数存在する。それらの民族集団が表出する、固有の文化に結びついた象徴的行為や認識の体系のこと。

身体上の違いなど遺伝的アプローチによる区別は正確ではない。

エスニシティの決定的な基盤は、**文化的**なものの方が大きい。

例) アメリカのような広大な領土を持つ国でも、ユダヤ人のように離散しているものでも、文化的な基盤の下で育てば、そのプロト・ネーションに属しているといえる。

しかし、このエスニシティが国家を形成することはなかった。むしろ、国家に抵抗する基盤として機能した。

③宗教や王権、帝国

例) 聖ロシア

ロシアのある都市がトルコに攻められたときに、コサック人はこう歌った。

我々は二度と聖なるロシアに生きることはないだろう。我々は荒野で罪深い最期を遂げる。我々は奇跡をもたらす汝のイコンのために、キリスト教のために、ツァーの名のために、そしてモスクワ国家全体のために、死ぬ。

(『アゾフ海攻囲の詩的物語』のコサック人の叙事詩)

このように、**言語とエスニシティ**は、プロト・ナショナルの要因にならなかった。真の要因は、**宗教や王権や帝国**といったものであった。

- ・近代以前に大衆に帰属意識をもたらした**宗教**はパラドキシカルな接着剤であり、近代に入ると“ネーション”が一員の忠誠心を独占するのを阻害する要素になってしまった。

例) アイルランドと大英帝国

カトリックを信奉するアイルランドはプロテスタントの大英帝国に属していたが、宗教上の違いが、アイルランド人の権利を制限したため、独立する一因となった。

・ネーションを超越した宗教が宗教とエスニシティの一体化を制限した。

例) 部族宗教と世界宗教

部族宗教は、限られた範囲でのみ信仰されていたため、拡大することを嫌う。しかし、世界宗教は普遍的で、エスニックや言語の違いは問題にならない。そのため、世界宗教のもとでは、エスニシティと一体化して区別を感じさせることはなかった。

・異なる宗教への改宗が二つの異なるナショナリズムを創ることもある。

例) セルビア人とクロアチア人

単一の言語を有しているにもかかわらず、ローマカトリックを信仰するセルビア人と正教を信仰するクロアチア人は対立するナショナリズムを生み出した。

・なぜ、宗教が必要であるにしても、アイコン (Icon) ¹が必要になるのか？

聖像は、想像上にとどまるだろうコミュニティをはっきり知覚できるリアリティを与えてくれる。そのため、アイコンは、近代的ナショナリズムやプロト・ナショナリティにとっても決定的要素になった。

しかし、対象の領域が広すぎても狭すぎてもアイコンは機能しない。

例) カトリック世界における聖母マリア。ナポリにおける聖ヤヌアリウス。

よって、ネーションにとって最適な聖像は、神、皇帝、王やそれと結びついた聖像である。

例) 大日本帝国における天皇

・宗教的アイデンティティはナショナリズムと必ずしも一致しない。

たとえば、イラク人やイラン人国家を作るといようなナショナリズムと、イスラム教といような宗教的アイデンティティが一致するというのなら、オスマン帝国のような多元的法人国家と対立してしまう。

・プロト・ナショナリズムの決定的な基準は、**一定程度継続してきた政治実体に帰属している、あるいは帰属してきたという意識！**

・ **歴史的ネーション**

相当な長さを持つ存在する国家、または、存在した国家との結びつきによる帰属意識。

・ **政治的ネーション**

いわゆる貴族階級・紳士階級の特権的エリートに生まれる帰属意識。

王国であれば、王やツァーリといった至高の支配者を通じてこれと一体化できた。しかし、領主などは、農民が不満を表す対象であったため、一体化には役立たない。

¹ 著者はアイコンの例として、聖像のほかに、イスラム教の礼拝のような儀式も挙げている

・プロト・ナショナリズムとナショナリズムの連続性はあるのか？

例) 聖チロルのドイツ系住民

以前は、ロシアの一員であったが、20世紀には、ドイツ・ナショナリストになり、アドルフ・ヒットラーの熱狂的支持者となった。

・しかし、プロト・ナショナリズムはナショナリズムの発展を容易にした。なぜなら、プロト・ナショナルに存在するシンボルなどは、近代的主張や近代国家のために利用されうる。プロト・ナショナリズムだけでは、ナショナリティやネイションを形成できない。だからといって、これは両者を同一にするわけでもない。

・プロト・ナショナリズムだけでは、国家やナショナリティ、ネイションを形成できない。世界全体がネイションによって構成されているわけではない。プロト・ナショナリズムが背景として存在しても、本格的な民族運動を行わない集団がいるのだから、プロト・ナショナリズムだけで十分ではなく、ほかの要因が介在することが考えられる。

・プロト・ナショナルな基盤の存在は、必ずしも不可欠というわけではない。ネイションは、国家設立の結果作り出される方が多い。

例) アメリカ合衆国

・実際の大衆の感情は汲み取れないので、実際にこうと確信を以ては言えない

4. 統治者側にとってのナショナリズム

・近代国家

封建制から絶対君主制・立憲君主制への移行によって、国家は直接支配を行うようになった。そして、選挙による代表者の選出は、国家を国民的機関へと変えた。

近代国家
の
抱える

実効的な統治形態の形成

2つの問題

国家に対する忠誠心の確保

i. 実効的な統治形態の形成

国民に学校教育を受けさせることで、国家との直接的な結びつきを可能にした。

ii. 国家に対する忠誠心をいかに確保するか

1848年革命など労働運動や社会主義運動の活発化、決戦戦争など国民の統率が重

要になっていた。

・**愛国心**を国家に集中させようとする。

国家以外の忠誠を引き付けるナショナリズムや社会主義などの諸力も存在した。その中でも、**国家から独立したナショナリズム**が最も脅威だった。それゆえに、愛国心とナショナリズムを結び付けることは政府にとっては強大な力を持つ資産となった。そして、最大規模の移住、帝国主義、世界大戦など絶えず流動する人々を結束させる方法として、部外者に対して結束させる以上に効果的な方法はなかった。

「ネーション」のイメージと伝統を広め、それへの愛着心を植え付け、小学校など行政機構を用いて住民との結びつきを強化した。そのために、「**伝統の発明**」や**ネーションの発明**が行われる。



例) スコットランドのタータン・チェックのキルトやバグパイプ

・国家が一つのネーションと一体化することは危険性を孕んでいた。

本来の意味での、現在もアメリカで保持されているような前時代的な**革命的ネーション**²はと対立する。

近代化の過程で、住民を同質化し、標準化することは、統治の都合上仕方のないことであった。そのために、たとえば、ある地方の方言を「国語」に設定することは、他の地域の**言語ナショナリズム**を刺激した。

例) イングランドとウェールズ

イングランドの方言を国家で標準語と設定することは、そのほかの方言（ウェールズ語やスコットランド語など）を話す集団を不利にしてしまい、言語とナショナリズムに結びつきを生んでしまう。言語は政治的選択という意味合いも含むのだ。

・また、**政治の民主化**は、国家的愛国心と区別し難い人民主義的意識を生み出す傾向にある。大衆市民は従属性を持って居るため、人民主義的愛国心は歪められやすかった。なぜなら、そうした愛国心の発展していた国々では、国家があらゆる政治課題に対して愛国心を向けるべきかを明示したから。

例) 第一次世界大戦

各国政府は、この戦争は防衛的なものだと市民にこの脅威を訴えた。市民自身も政治的権利を主張するようになっていたため、愛国心をもって戦闘に参加した。

² 潜在的市民の政治的選択によって構成されるものとしてのネーション。そこに、人種や、民族、言語などは関係ない。

5. ナショナリズムの変容 1870-1918

POINT! 「規模の原則」が放棄された

ナショナリズム

の
変容

1880-1914

エスニシティと言語がネイションであること
の中心的意義になった

ネイションと国旗の政治的権利を主張するよ
うになった

テストに出るよ!

▶非西欧世界にナショナリズムが広まった。

例) グルジア (ジョージア)

アレクサンドル 3 世のロシア化政策に対しての反発として、民族再興運動が行われ
た。1904 年には、マルクス主義者の指導した世界初の農民反乱も起こった。

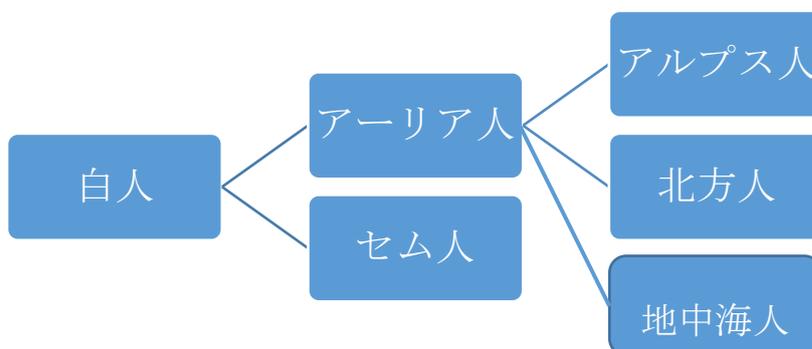
▶どうして、この時期になって、ナショナリズム運動が盛んになってきたのか？

实际的要因

- ・地理的な民族移動の大規模化などの当時の社会的変化、政治的变化

理論的要因

- ・人種の細分化



こういった人種の細分化は人種主義につながった。また、言語と人種の混同もあって、遺
伝的概念の人種は文化的側面の強い民族と共に用いられるようになった。結果的に、エスニ
ック的ナショナリズムと言語的ナショナリズムが相互に強め合うことになった。

当時の社会的変化、政治的变化

急激な近代化によって、生活を脅かされた伝統的集団の抵抗

都市化社会で、急速に増大した伝統にとらわれない新しい階層

前例のないグローバルな移民

・戦闘的ナショナリズムの一つである反ユダヤ主義運動が盛んになった。(イギリス・フランス・ドイツ・ロシアなどで)

・戦闘的なナショナリズム…労働者、外国と外国人、移民、資本家と金融業者 (ユダヤ人と同一視) の「脅威」への対応。

・脅威に直接晒される下位の間接諸階層が中心だった。

→言語の統一により、土着語を用いていた下位中間層に劣等感や地位の不安定さを強く意識させることになった。

・しかし、こうした戦闘的なナショナリズムは、政府の煽動などで形成されたのではなく、大衆からの自然発生的なものだった。それゆえ、国家からネイションの独立することで、ふさわしい地位を得られると考えた。

例) アイルランド自由国

英語でなく、ゲール語があらゆる行政事務職必須の資格となるものであった。

・戦闘的なナショナリズムが社会主義運動に対抗することもあった。

→社会主義は、民族関係なく労働者の革命を標榜としたが、ナショナリズムは、民族による独立を目指しているため、対立した。しかし、民族的不満と社会的不満を結び付けることで、社会主義のような左翼勢力はナショナリズムに結びついていく。

例) 労働党 (イギリス)

ウェールズやアイルランドの民族感情を表現しつつ、労働者階級の利益を訴えた。

6. 絶頂期のナショナリズム 1918-1950

・第一次世界大戦の結果

①中欧と東欧の多民族国家崩壊

オーストリア=ハンガリー二重帝国、オスマン帝国、ドイツ帝国、ロシア帝国の崩壊。

②ロシア革命

これらによって…

i. 本来の“ネイション”の範囲を超えるハンガリー、ユーゴスラヴィアが独立。

ii. ボリシェヴィキの台頭やそれに伴うソヴィエトやコミンテルンの創設。

・第一次世界大戦中での大衆の意識の変化

民族問題を含む帝国の敵意と平和の願いを大衆は抱くようになった。しかし、戦争の長期化とともに、平和と社会革命を望むようになっていった。

・ウィルソンの「民族自決」

→ヴェルサイユ体制の下、新たな国家が乱立。

しかし、チェコ＝スロバキアやユーゴスラヴィアのように「諸民族の牢獄」に。

→ナショナリティと国家を一致させることは不可能。(野蛮な手段よってのみ可能)

例) NSDAP (国家社会主義ドイツ労働者党)

アンシュルス (オーストリア併合)、ミュンヘン協定 (スデーテン割譲)

→人々が自らの所属を決める際、必ずしもナショナリティと一致しようとしな

例) アイルランド

アルスター地方 (北アイルランド) とその他の住民の意識の乖離

・ナショナリズム運動が地理的に拡大し、ヨーロッパ型と異なるものが誕生

→汎アラブ主義、汎ラテンアメリカ主義、汎アフリカ主義といった超ナショナリズム。

→植民地支配によってもたらされた共通要素を基盤に運動。

・欧州のナショナリズムはネイションの解放と統一が一応は達成されたことで変貌する

→ハプスブルク帝国やオスマン帝国といった多民族国家から国民国家へ矛先を変える

→“統一”から“分離”へ (大規模のナショナリズムから小規模のナショナリズムへ)

・国民的一体性の大衆への新たな表現手段

①近代的なマスメディアの発展 (出版物、映画、ラジオ)

例) ナチスの宣伝省

②国際スポーツ

例) サッカーW杯、ベルリン・オリンピック、ツール・ド・フランス

いずれも、国威高揚のために利用された。

・戦間期の欧州におけるナショナリズムは、確立されたネイション＝ステイトとイレデンタ (領土回復主義&民族統一主義) のナショナリズムであった。

→これにファシズムなど右翼的運動が迎合する。

・ファシズムは2つの脅威に対してナショナリズムを利用

①ボリシェヴィキズム³

②反軍国主義

・左翼における国民的愛国心の高まり

①反ファシズムのナショナリズムは世界的なイデオロギーの下で行われた内戦で現れた。

例) 英国

保守派「ヒトラーは共産主義の防波堤だから…どんどん宥和する YO！」

→このように、内戦において、右翼が排外的愛国心を放棄したため、左翼が国民的愛国心と接近しやすくなる。

②他国の選択が民族的感情を強めるように作用したこと。

例) スペイン内戦

独伊の介入もあったこの内戦での結果が英仏の将来や対独の命運の行方を感じさせた。

このように、ナショナリズムは反ファシズムの時期に左翼勢力と強く結びつき、その後、植民地諸国の反帝国主義運動によって強められていく。

・反帝国主義運動

①教育を受けた現地エリートが「民族自決」を真似る場合

例) インド

②反西欧としての排外主義が大衆に広まっている場合

例) 中国など社会主義国家

③勇敢な部族が怒りに燃えている場合

例) モロッコやアラビアの砂漠地帯

・第三世界におけるナショナリズム

独立後、植民地時代に領土が民族的に分割されていないことに対して向けられる。

例) スーダン (中央アフリカ)

北部はイスラム教徒のアラブ人、南部はキリスト教徒のアニミスト黒人)

7. 20世紀後半のナショナリズム

・1989-1992のナショナリズム

帝政ロシアの崩壊の影響は、ヨーロッパとザカフカース地方に限られた。しかし、ソ連は上記をはるかに超える地域に影響を与える。

³ ソ連とかそういう赤軍勢力のこと。

・このとき、噴き出したのは 1918 - 1921 に作りだされたもの。つまり、ヴェルサイユ条約やブレスト・リトフクス条約のもたらしたものである。

・1989 年以後に噴き出したものは、本質的には民族的緊張によるものではない

第一の原因は、ソ連軍が東ドイツなど衛星国家から引き揚げたことで、その中央集権的統制と権力構造を弱め、バルカンやヨーロッパの共産党政権の基盤を弱めることになった。また、ペレストロイカの失敗は市民の生活を苦しめ、連邦政府の信頼を低下させ、その責任が問われることになった。

・民族的緊張による独立の機運はバルト三国を除いて、西側諸国で強かった。

例) イギリスのスコットランド、スペインのカタルーニャ地方など

この二つは、21 世紀に独立を問う住民投票が行われている。2015 年には、カタルーニャの州議会が、独立手続き開始宣言を採択した。

・ナショナリズムは以前と違い、歴史的要因にはもはやなりえない

ナショナリズムは、帝国主義からの政治的解放への主要な力となった。19 世紀の西欧では、解放と同時に統一を目指すものであった。しかし、今日の分離主義的で自他の差を強調するエスニック集団の主張にはそのような計画性がない。そのため、これは非現実的である。

・原理主義とナショナリズム

キリスト教やイスラム教などの原理主義は、コーランや聖書を通して、個人や社会に対して指針を与えてくれる。一方、言語やエスニシティは現状の抵抗する上で、基準や正当性を与えるが、将来の指針は与えてくれない。

また、ナショナリズムは支持を得られやすいのに対し、原理主義は少数派にとどまるのが一般的である。

・分離主義的で民族的な煽動が勢いを増している理由

ウィルソンの民族自決とは何ら関係なかった。

①非植民地化

植民地の行政地域を基にして独立国家が形成される。しかし、そこの住民の都合を考慮してないので民族単位と合わない境界を引いてしまうことになった。

例) シリア・アラブ共和国

もともと、英国植民地だった地中海に面する一帯が一国として独立した。しかし、エジプト、シリアなど広範にわたる地域だったため、分離が起こる。

②革命

民族的自治を認めることで、ナショナリズムの影響力を抑える。

例) 社会主義国家

ソ連は表向き複数の共和国の連邦として、民族の連邦制と自治の原則を認めることで、ナショナリズムの影響を抑えた。

③外部勢力の内政干渉

・小国家の独立が続く。

ナショナリズムは現代においては、自己破壊的である。また、小国家は軍事面で国際秩序に依存し、国際政治においては、現実的役割を何ら持たない。経済的にも、グローバル経済の中、みずからをコントロールできない。

・ナショナリズムはこれから、自分のアイデンティティを表す一手段にしかすぎなくなる。

- ・ 20 世紀の国家形成が、非エスニック的、非ナショナリスト的であったからといって、21 世紀の政治的再構成のために代替原則として、エスニック反応が提供されるわけではない。
- ・ ナショナリズムは、事態を紛糾させる諸要素の要因、あるいは他の事態の発展のために存在するに過ぎなくなっている。
- ・ ネイションとナショナリズムよりも、民族的な歴史と文化がより比重を占めるようになるだろう。そして、ネイションが重要でなくなれば、ナショナリズムも重要ではなくなっていく。自己のアイデンティティの発露の一手段になる。

8. おわりに

以上のように、ナショナリズムの歴史について、さまざまな要因とともに振り返った。著者は、ナショナリズムが重要ではなくなるのでは、と結論付けているが、難民・移民受け入れ問題やイギリスの EU 脱退など 20 世紀後半に比べれば、戦闘的といえるナショナリズムの傾向が強くなってきている。極右政党や地方政党の興隆もそれを表す現象の一つとして挙げられる。そう考えると、これからもナショナリズムは未だに重要な役割を担い続けていくのでは、と思う。